

【ねがいましては】

平成28年7月25日
第309号

KYOWA SCHOOL

「職種」

興味深い記事が、ここ最近目にとまります。お子さんがこの先どのような職業に就くのか、不安視なさっている保護者の方は多いと思います。

野村総合研究所の試算では、10～20年後には、今の日本の労働人口の約半分が、人工知能やロボットに変わるとしています。大事件です。単純に考えれば、就労者の半分以上が失業してしまうということです。それまでに、その時代に合った職業に就けるよう子どもたちは学んで行かなければならないということです。

国立情報学研究所教授の新井紀子氏は、「東ロボくん」という人工知能を育てているようで、「ロボットは東大に入れるか」というチャレンジをなさっているそうです。現在は、上位2割に食い込んでいるそうです。もっともそれには現在行われている入試内容が使われているそうです。

文科省は、PCでもできてしまう現在の入試内容を見直すべく、2020年度から「大学入学希望者学力評価テスト」（仮称）を準備中です。内容は、思考力・判断力・表現力を中心にし、記述式を導入するそうです。そうすれば、いかに東ロボくんでも、そう簡単には解けないそうです。それと平行して恐ろしいことが予測できるのだそうです。現行の入試制度で準備中の受験生たちは、ことごとく「0点」をとる者が発生するだろうということです。

東ロボくんを育てるための方法としては、今までの入試で使われた問題を大量にインプット、そのデータから割り出された予想をもとに解答するのだそうで、当然、資金力に富んだ大手進学塾なども各校の過去問を研究し、予想問題を算出、機械的に答えられるよう訓練することで、問題に対処しているかもしれません。だとすると、肝心要の、真の読解力は身につけているのか不安になります。そこで、新井さんは、次の2問を中・高生約1000人を対象に行ったそうです。

問い(1) アミラーゼという酵素はグルコースがつながってできたデンプンを分解するが、同じグルコースからできても、形が違うセルロースは分解できない。

セルロースは()と形が違う

A デンプン B アミラーゼ C グルコース D 酵素 (高校生物基礎)

問い(2) 仏教は東南アジア、東アジアに、キリスト教はヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアに、イスラム教は北アフリカ、西アジア、中央アジア、東南アジアにおもに広がっている。

オセアニアに広がっているのは()である。

A ヒンドゥー教 B キリスト教 C イスラム教 D 仏教 (中学校社会)

問い(1)については、高校生正解率33%、中学生9%、(2)では、高校生81%、中学生53%だったそうです。正解は(1)がA、(2)がBです。

新井さんは断言しています。「多くの生徒が、文頭やキーワードの近くにある言葉を選んでいきます。実はこれは意味を理解しないで問題を解く人工知能が陥りやすい読み方なんです。」

つまり塾などで行われている「点を取るためのだけの勉強」は、東ロボくんでも行っていること、であれば、この先今まで通りのやり方で人生を生き抜いても、そこには人工知能がすでに『就職』しているわけで、『ひと』など働ける場所などないことになります。新井さんは続けます。「塾(進学塾)に行けば点数は上がります。でも、教科書が読めているかどうかは、塾(進学塾)に通っているかどうかと関係ないことが今回の調査でわかったんです。」

新井さんは最後に締めくくります。「英語教育の充実やプログラミング教育の導入を言うならば、まず日本語を何とかすべきなのです。(中略)だから最低限、教科書を読めるようにしてから中学を卒業させなくちゃいけないんです。」

私がかねがね、「勉強は楽しむもの、自分のペースで取り組むもの、他を意識しない。」その他にも結構ブツブツ言ってきました。今回のこの記事は、改めて現在の成績主義がそうさせてしまったことから生まれ出たもの。点さえとればそれでいい、これはコンピューター「東ロボくん」でもできること。これからは、コンピューターにはできないものこそ、生きていくための糧となるものといえそうです。

新井さんはこの記事の冒頭で今の職種で代替されないものを掲げています。窓口業務・介護・教育です。まだまだあると思いますが、この3つに共通しているものは、すべて生身の「ひと」と接することです。これだけは、コンピューターでも無理でしょう。なぜなら、目の前の人の表情から、その人の感情をすかさず感じ取れることはできないからです。

思いやりや優しさは、人の感情から湧き起こる大切なものです。

キャンプのしおり、裏表紙に書かれているひとこと・・・

「もしとなりにだれかいたら、そとところの手をにぎってあげてね」

「ひと」になろうね。